

ベネズエラ情勢（内政・外交：平成28年12月）

1 内政

（１）与野党間対話にかかる動き

ア 5日、パロリン・ローマ法王庁国務長官が、政府、野党連合 MUD に対し、これまでの合意内容を遵守するように要求する内容の書簡（1日付）を送付していたことが明らかになった。これに対し、カベージョ国会議員は、「バチカンとは、与野党間対話に招待されているのであり、拒否したり、提案したりする権限はない。」と非難した。

イ 6日、ローマ法王庁特使、UNASUR 等の立会の下、与野党間対話のための3回目の全体会合が開催される予定であったが、会合が与野党個別に実施された。会合後、「ベネズエラ国内対話の立会人による声明」が発表され、次回会合までに、テーマ別の作業部会において、早急に、①平和、法治国家、国家主権の尊重、②真実、正義、人権、被害者への補償、和解、③社会経済、④信頼の創出、選挙日程、について作業していくとされた。

ウ 7日、トレアルバ野党連合 MUD 事務局長は、野党連合 MUD の今後の方針にかかる協議後、「政府が、明年1月13日までに合意を遵守しなければ、同連合は、4回目の全体会合に出席しない。」と発言した。

（２）マドウーロ大統領への政治的責任の追及

ア 13日、野党連合 MUD の国会議員の賛成多数によって（与党会派は退席）、マドウーロ大統領の政治的責任を宣言する決議が採択された。

イ 14日、エクトル・ロドリゲス与党会派 GPP 院内総務は、大統領に対する政治的責任の追及は憲法上存在しない、今回の宣言は、野党連合 MUD によるクーデターであると述べ、市民権を構成する諸機関（検察庁、会計検査院、人権擁護官事務所）に調査を要求した。

（３）全国選挙評議会（CNE）新委員任命

ア 13日、最高裁は、国会が、最高裁の判決を遵守していないことから、国会による立法行為は無効であるとして、ソコロ・エルナンデス及びタニア・ダメリオを全国選挙評議会（CNE）の新委員として再任命した。（注：本年12月4日で任期満了となった2名の委員が、2023年まで続投することとなる。）また、最高裁は、アマソナス州等の当選保留国会議員（野党連合 MUD 所属の3名）の辞任にかかる正式な国会決議を実施するように再度要請した。14日、最高裁は、2名の委員就任の宣誓式を実施した。

イ 14日、国会は、最高裁による全国選挙評議会（CNE）の新委員任命は、越権行為であるとして、国会による任命の手続きを継続することを決議した。

ウ 15日、国会は、全国選挙評議会（CNE）の新委員の任命期限が15日までであったが、野党連合 MUD の3名の議員（新時代党2名、南部先住民枠選出議員1名）の欠

席により、3分の2の賛成票（109議席との主張による）に達しなかったため任命できなかったとした。

エ 16日、ソロルサノ国会議員（新時代党）は、新時代党は、バリエントス国会議員、スペルラノ国会議員（両議員とも新時代党）が、国会による全国選挙評議会（CNE）委員の選出を行うための15日の国会を欠席したことについて調査する間、両議員を党員資格停止処分にすると発表した。

（４） 100ボリバル紙幣にかかる動き

ア 11日、マドゥーロ大統領は、100ボリバル紙幣の流通を72時間とし、その後の使用を不可とする大統領令に署名した。

イ 12日、マドゥーロ大統領は、コロンビア・マフィアによる100ボリバル紙幣の流失への対抗措置として、コロンビアとの国境を72時間閉鎖すると発表した。14日、ブラジル外務省は、ベネズエラ政府が、国境を13日夜から72時間にわたり閉鎖すると通達したと発表した。

ウ 16日、アプーレ州、ボリーバル州、スリア州等において、抗議活動が発生した。スリア州マラカイボ市では、中銀が両替を断ったことへの抗議、また、新札の発行が開始されておらず、食料の購入ができないとする抗議等が、暴動、略奪行為へ発展。200人以上の逮捕者、多くの怪我人、数名の死者が出た。

エ 17日、マドゥーロ大統領は、100ボリバル紙幣の流通（効力）を明年1月2日まで延長するとともに、コロンビア、ブラジルとの国境閉鎖も、同日まで延長すると発表した。また、各地で起きた暴動は、大衆意志党と正義第一党が後押ししており、これらの党に責任があると発言した。

オ 19日、中国政府は、ベネズエラ政府に対し、ボリーバル州等において発生した暴動や略奪に懸念表明し、ベネズエラ在留中国人の保護を要求した。

カ 19日、コロンビア外務省は、リンコン在コロンビア・ベネズエラ大使を召致し、マドゥーロ大統領が、コロンビア・マフィアによるベネズエラ通貨への攻撃があると発言したことを受け入れられないと伝えた。

キ 19日、米国国務省報道官は、「米国は、ベネズエラにおける新紙幣の流通を妨害したり、障害を設けたりしていない。ベネズエラにおける新紙幣の導入や100ボリバル紙幣の回収は、国家主権の問題である。」と述べた。

ク 20日、マドゥーロ大統領は、19日のサントス・コロンビア大統領との電話会談後、20日午前6時より、国境の歩行者用通路を再開することを決定したと発表した。

ケ 20日、ブラジル政府は、13日から閉鎖されているベネズエラとの国境の通行を再開したと発表した。

コ 21日、オルテガ・ディアス検事総長は、「16日～18日のボリーバル州やアプーレ州等の暴動で、424人が逮捕された。338人が、裁判所で判決を受け、233

人が、刑務所へ搬送され、79人が、定期的な裁判所への出頭等の処分となった。今回の暴動で4人が死亡した。」と発表した。

サ 22日、コロンビア外務省は、閉鎖中のベネズエラとの国境が、クリスマス～年始の午前5時～午後8時の15時間、徒歩の通行が許可されるとのコミュニケを発出した。

シ 29日、マドゥーロ大統領は、100ボリバル紙幣の有効期限を明年1月20日まで延長すると発表した。

(5) その他の政府・与党の動き

ア 8日、ロドリゲス外相は、医薬品を購入するための国連との協力体制を拡大すると発表した。

イ 28日、マドゥーロ大統領は、国軍の年末挨拶の式典において、「平和のため、戦略的諜報システムを発展させる。また、国軍特殊部隊を拡大する。そのための最新式の装備は、中国及びロシアから購入する。」と発言した。

(6) その他の国会・野党の動き

ア 13日、4人の政治囚が釈放された。同日、その内の1人であるフィゲラ代理国会議員は、国会において宣誓した。

イ 21日、国会は、2017年度の国会経費のための予算案（930億ボリバル）を政府に提出したところ、政府の許可は、70%減にあたる270億ボリバルであった。マルキナ財務・経済開発委員会委員長は、国会は、政府による経済的な被害に遭っていると非難したが、国会は、満場一致で減額された予算案を承認した。

ウ 31日、マヌエル・ロサレス元スリア州知事及び2014年のデモで逮捕された政治囚計7名が、条件付きで釈放された。6人は、出国禁止及び、15日毎の裁判所への出頭、同元スリア州知事は、7年6ヶ月の政治活動の禁止も条件。

2 外交

(1) メルコスール

ア 2日、メルコスール原加盟国（アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ）外務大臣は、ベネズエラが、12月1日時点で、メルコスールの規則、協定を国内法に取り込む義務を履行しなかったとして、ベネズエラの加盟国としての本来の権利の行使を停止するとの共同声明を発出した。これに対し、同日、ロドリゲス外相は、メルコスール原加盟国によるベネズエラに対するクーデターであると非難した。

イ 3日、マドゥーロ大統領は、「メルコスール原加盟国の決定を承認しない。バスケス・ウルグアイ大統領との協議を要求する。」と発言した。これに対し、4日、バスケス大統領は、「マドゥーロ大統領の要求を受け入れる。国家間の関係や政治に撤回できないことはない。」と発言した。

ウ 13日、ウルグアイ外務省は、ベネズエラの要請による紛争解決のためのオリー

ボス議定書の適用を支持するとのコミュニケを発出した。

エ 14日、メルコスール外相会合が、ブエノスアイレスにおいて開催され、アルゼンチンが輪番制議長国に就任した。ロドリゲス外相は、ベネズエラは加盟国であるため、招待されなくても、出席する権利はあるとして、出席を試みたが、警官に押し返され、入場を許可されなかった。

オ 14日、マルコーラ・アルゼンチン外相は、ベネズエラの要請によるオリーボス議定書の適用を、15日より開始すると発言した。

(2) その他

ア 4日、マドウーロ大統領は、カストロ・キューバ前国家評議会議長の葬儀（於：キューバ・サンティアゴのサンタ・イフィヘニア墓地）に参列した。

イ 5日～6日、第12回ベネズエラ・ロシア高級レベル会合が、カラカスにおいて、開催された。

ウ 15日、米務省は、ベネズエラへの渡航について、犯罪、暴動、広がる食料・医薬品不足を理由に、渡航自粛要請を呼びかける内容に更新した。

エ 21日、米法務省は、ブラジルの建設会社 Odebrecht が、12か国の事業において、計7.88億米ドルの贈賄を行っていたことを明らかにし、ベネズエラにおいては、政府高官や仲介者に対し、約9,800万米ドルの賄賂があったとした。22日、ゲバラ国会会計監査委員委員長は、かかる賄賂の調査を開始すると発言した。

オ 22日、ロドリゲス外相は、趙本堂当地中国大使と会談し、国民の福祉及び発展のために、これまでの二国間協力アジェンダをレビューした。

カ 22日、ロドリゲス外相とマルミエルカ・キューバ外国貿易・外国投資大臣は、2017年に教育、スポーツ、医療、食糧・農業、文化の分野を拡大・強化するためのキューバ・ベネズエラ協力協定に署名した。

キ 25日、フランシスコ・ローマ法王が、サンピエトロ大聖堂におけるクリスマスメッセージの中で、ベネズエラについても言及し、国内の緊迫した状態を終わらせるために必要な道を取ることを求めると述べた。

ク 26日、外務省は、コロンビア政府と NATO（北大西洋条約機構）が、軍事協力協定の交渉を開始したことは、二国間協定及び UNASUR や CELAC 等の地域協定を侵害していると非難するコミュニケ（25日付）を発出した。

ケ 28日、カッシーニ・イタリア上院外交委員会委員長が、ベネズエラを訪問し、ボルヘス野党連合 MUD 院内総務等と会談し、国会への支持を表明した。また、アルカライ当地イタリア大使等とともに、レデスマ・前カラカス市長を訪問しようとしたが、政府から許可されなかった。